日本パーソナリティ心理学会：第 100 回常任理事会

日時：2011 年 2 月 5 日（土）15：00～18：00
場所：東洋大学 2 号館第 2 会議室
出席：浮谷秀一理事長、小塩真司、中村真、二宮克美、藤田主一、松田英子、向田久美子、
　　山崎晴美、渡邊芳之
欠席：堀毛一也副理事長、荘厳舜哉大会準備委員長
事務局長：加藤司

報告事項

I　各種委員会報告

1　機関誌編集委員会（渡邊委員長）

（1）「パーソナリティ研究」の発行状況について
1）「パーソナリティ研究」第 19 巻 2 号の発行状況について
　12 月 24 日までに会員に送付された。
2）「パーソナリティ研究」第 19 巻 3 号の発行状況について
　「パーソナリティ研究」第 19 巻 3 号の掲載論文を掲載した。掲載論文は下表の 12 本（原著 4 本うち英文 1 本，資料 3 本，ショートレポート 5 本）である。
　入稿済であり 3 月中の発行をめざす。

掲載番号	審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
19-3-1	A-228	原著	過敏性自己愛傾向が現代青年のふれ合い恐怖心性に及ぼす影響について	伊藤亮	2009.11.6	2010.10.3
19-3-2	A-221	原著	日米の小学生の自己概念	富岡 比呂子	2009.7.22	2010.11.14
19-3-3	A-245	原著	学業における自己価値の随伴性が内発的動機づけ低下に及ぼす影響プロセス	大谷和大	2010.6.2	2010.12.25
19-3-4	A-265	原著	Creating my own way of being a psychologist	Katrin Kullasepp	2010.12.16	
19-3-5	B-A-216E	資料	楽観性とポジティブ志向および主観的幸福感の関連について	橋本京子	2009.6.5	2010.10.3
19-3-6	B-A-230	資料	被害妄想に伴う感情を測定する尺度の開発	津田 恭充	2009.11.25	2010.11.21
19-3-7	B-A-218E	資料	対人ストレス過程における楽観的説明スタイルと属性的楽観性の役割	伊澤冬子	2009.7.7	2010.12.25
19-3-8	S-176	ショートレポート	不合理な信念がストレス反応に及ぼす影響	岡村寿代	2010.3.23	2010.8.25
19-3-9	S-162	ショートレポート	抑うつ的反すうとネガティブな反すうが抑うつに及ぼす影響の比較	長谷川晃	2009.7.31	2010.8.27
19-3-10	S-181	ショートレポート	統合失調型パーソナリティにおけるメタ認知機能の失調	佐藤徳	2010.5.17	2010.9.19
19-3-11	S-182	ショートレポート	ドットプローブ課題を用いたBIS/BAS尺度日本語版の構成概念妥当性の検討	中村 敏健	2010.5.27	2010.10.13
19-3-12	S-177	ショートレポート	プライバシー意識とプライバシーの捉え方の関係	佐藤広英	2010.3.29	2010.12.2

（2）「パーソナリティ研究」の編集状況について
1）「パーソナリティ研究」第 20 巻 1 号以降の編集状況

2 月 2 日現在で採択論文はなく、審査中の論文は 57 本である。

（3）投稿状況について

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2010	2	2	1	0	0	3
	3	2	0	4	0	6
	4	3	1	3	0	7
	5	2	0	2	0	4
	6	3	3	2	0	8
	7	1	0	3	0	4
	8	6	0	3	0	9
	9	1	0	1	0	2
	10	3	2	1	0	6
	11	5	2	2	0	9
	12	3	2	2	0	7
2011	1	3	0	2	0	5
合計		34	11	25	0	70

（4）その他

1）EBSCO Publishing との協定について

アメリカ EBSCO Publishing との協定が成立し，この会社が供給するデータベース等の製品に「パーソナリティ研究」の掲載論文が収録されるようになった。

2）J-STAGE の電子審査システムについて

来年度中に新たなシステムに移行しなければならないことが報告された。

2　経常的研究交流委員会（二宮委員長）

（1）一般公開シンポジウム

テーマ：「マンガが人に与えるポジティブな影響」

講演者：すがやみつる

日時：2011 年 3 月 19 日（土）　午後 2 時開始

場所：聖心女子大学 3 号館 344

3　広報委員会（小塩委員長）

（1）委員会体制

（2）ヤング・サイコロジー・プログラム

大会前日に京都周辺で開催予定

（3）大会企画

今年度は諸事情により見送る方向で検討中であることが報告された。

（4）学会ウェブサイトの運営者の記載について

学会ウェブサイトの運営委員として広報委員会の委員名簿を載せることが提案され、承認された。

（5）理事企画（Q&A）の継続について

4　国際交流委員会（向田委員長）

（1）英語論文

Katrin Kullasepp 先生の投稿論文が採択され、Brent W. Roberts 先生からは 3 月末に投稿予定である。

（2）第 19 回大会企画

Brent W. Roberts 先生による招待講演とセミナーが終了した。

（3）第 20 回大会の企画

David C. Funder 先生（University of California Riverside）の招待講演を、お茶の水女子大学 GCOE との共催で、企画している。

5　学会活性化委員会（藤田委員長）

（1）「学会活性化委員会による学会活性化のためのウェブアンケート」について

ウェブアンケート（案）を実施したいとの提案があり、承認された。

（2）学会活性化委員会主催の研究会について

パーソナリティ教育/応用力パワーアップ講座

日時：3 月 12 日（土）13：00 から

場所：立正大学大崎キャンパス 11 号館の 1151 教室（予定）

（3）委員体制

（4）「優秀大会発表賞」規程が提案された。

（5）優秀大会発表賞

以下の 3 発表が「優秀大会発表賞」に選ばれた。

「Big Five モデルと Default mode network との関連－安静時 fMRI を用いた検討－」

○国里愛彦（広島大学）、岡本泰昌（広島大学）、岡田剛（広島大学）、山脇成人（広島大学）

「女子中学生の体重や体型へのこだわりと対人関係に関する研究」

○前川浩子（金沢学院大学）、眞榮城和美（清泉女学院大学）

「規範の過度の遵守要求認知が対人評価に及ぼす影響－調節要因としての認知の能力の検討－」

○上原依子（大阪大学）、釘原直樹（大阪大学）

メール会議にて承認された事項であり、追認された。

6　各種電子化検討小委員会（中村委員長）

（1）アンケートの実施と集計結果

アンケート回収数は 71 部

将来の刊行方法については、現状維持派と印刷版廃止容認派が拮抗しているが、自由

記述欄への投稿内容は、印刷版の廃止に慎重な対応を求める声が多い。
電子版のみとなった場合に印刷版の有料購入を希望する会員が一定数存在する。
電子版のみとなっても、回答者の 7 割以上が閲覧に制約を設けるべきではないと考え掲載論文の抜刷は必要と考えている。
（2）マイページの利用および活動

Ⅱ　日本心理学諸学会連合

1　日本心理学諸学会連合について（浮谷理事長、補足：藤田常任理事）
国資格問題について、三団体共同見解（案）についての説明がなされた。

2　心理学検定について（松田担当常任理事）
任期 2 期目として、心理学検定局員に松田英子を推薦することが承認された（任期：2012 年 4 月 1 日から 2 年間）。

3　ICP2016 組織委員会委員について（浮谷理事長）
日本心理学会より、ICP2016 組織委員会委員推薦の依頼があり、国際交流員会から推薦することが承認された。その後、国際交流委員会より佐藤達哉理事 1 名を推薦候補者とする提案があり、ML にて承認されたため、本学会としては佐藤理事を推薦することにした。

4　その他
なし

Ⅲ　第 20 回大会準備状況について（浮谷理事長）

大会準備委員長の荘厳委員長が欠席のため、理事長が、まもなく 1 号通信が会員に届けられるということを代理で報告した。

Ⅳ　事務局報告（加藤事務局長）

1　所属変更の問い合わせに関して
2　会費未納者リスト
会費未納者が報告された。

Ⅴ　「パーソナリティ心理学ハンドブックについて」

3 月 19 日（土）に、聖心女子大学で編集会議をする予定であることが報告された。

Ⅵ　その他

なし

審議事項

1　名誉会員推挙に関する件（事務局）
　岡村一成氏を推挙することになった。

2　第 99 回常任理事会議事録承認に関する件（事務局）

3　新入会員に関する件（事務局）

既にメール会議で承認されている以下の新入会員希望者が承認された。

　1 月 31 日現在、名誉会員 6 名、賛助会員 1 名、一般会員：584 名、院生会員 280 名、学生会員 7 名、計 878 名（上記新入会員希望者のうち、手続きを済ませたものを含む）。

4　その他
　なし

次回は、東洋大学　5 月 28 日 15：00～